

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-202097

(P2017-202097A)

(43) 公開日 平成29年11月16日(2017.11.16)

(51) Int.Cl.

A45D 34/04 (2006.01)

F I

A45D 34/04 515D

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2016-95413 (P2016-95413)
 (22) 出願日 平成28年5月11日 (2016.5.11)

(71) 出願人 591147339
 株式会社トキワ
 岐阜県中津川市桃山町3番20号
 (74) 代理人 100088155
 弁理士 長谷川 芳樹
 (74) 代理人 100113435
 弁理士 黒木 義樹
 (72) 発明者 鈴木 匠
 埼玉県川口市栄町一丁目19番26号 株
 式会社トキワ内

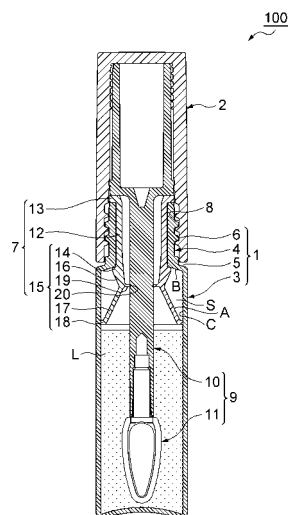
(54) 【発明の名称】化粧料容器

(57) 【要約】

【課題】化粧料の使い残しを大幅に低減できる化粧料容器を提供することを課題とする。

【解決手段】扱き部材7において容器本体1の肩部5より下方へ向かって突出する突出部15が、下方へ行くに従って拡径する拡径部17を有し、この拡径部17の下端部18が、容器本体1の肩部5より下方の内面に接触又は近接する構成を採用することによって、突出部15の外表面Aと、容器本体1の肩部5の内面Bと、容器本体1において突出部15に対向する肩部5近傍の内面（拡径部17の下端部18に対向する位置より上方の内面）Cとにより画成される空間Sへの化粧料Lの進入を抑制し、これにより当該空間Sに化粧料Lが溜まることを抑制する。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

化粧料を収容する有底筒状の収容部の端部に対し縮径する肩部を介して開口頸部が繋がる容器本体と、抜き孔を形成する抜き部を内側に備え前記開口頸部の内周側に装着された筒状の抜き部材と、前記開口頸部に着脱可能に装着された蓋体と、前記蓋体から延在し前記蓋体が前記開口頸部に装着された状態で前記抜き孔を通りその先端の塗布部が前記収容部内の前記化粧料に進入する塗布具と、を備えた化粧料容器であって、

前記抜き部材は、前記肩部より下方へ向かって突出する突出部を備え、

前記突出部は、下方へ行くに従って拡径する拡径部を有し、前記拡径部の下端部は、前記容器本体の前記肩部より下方の内面に接触又は近接することを特徴とする化粧料容器。

10

【請求項 2】

前記拡径部は、変形可能な弾性材より形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の化粧料容器。

【請求項 3】

前記蓋体を前記容器本体から取り外し前記塗布部が前記拡径部に位置した状態で、前記蓋体を傾けたときの前記塗布部の可動域に、前記拡径部の内面が位置することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の化粧料容器。

【請求項 4】

前記抜き部は、前記拡径部の基端に設けられていることを特徴とする請求項 3 記載の化粧料容器。

20

【請求項 5】

前記拡径部は、テーパ状に拡径することを特徴とする請求項 1 ～ 4 の何れか一項に記載の化粧料容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、化粧料を塗布するための化粧料容器に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、化粧料を収容する有底筒状の収容部の端部に対し縮径する段差部を介して口頸部（開口頸部）が繋がる容器（容器本体）と、開口（抜き孔）を形成する抜き弁を内側に備え口頸部の内周側に装着された筒状の抜き部材と、口頸部に着脱可能に装着された蓋体と、蓋体から延在する支持軸の先端に設けられ、蓋体が口頸部に装着された状態で抜き弁の開口を通り収容部内の化粧料に浸漬する塗布部と、を備えた化粧料塗布装置（化粧料容器）が知られている（例えば、特許文献 1 参照）。この化粧料塗布装置では、段差部が、上段と下段の 2 段の段差で段階的に縮径していく構成となっている。抜き部材は、その外周面に、上段の段差部に下から係合するための抜き部材側の段差部が円環状に突出する抜き突起部を備え、この抜き突起部は、上段の段差部に係合する抜き部材側の段差部からさらに下方へ向かって延びる円筒状部分（以下、突出部と呼ぶ）を有している。そして、この化粧料塗布装置にあっては、支持軸の軸線方向に対して傾斜する形状の塗布部によって、下段の段差部（収容部の上部の隅である所謂肩部；以下肩部と呼ぶ）に付着した化粧料を掻き取ることができる（以下、肩部と呼ぶ）とされている。

30

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2014 - 4315 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、特許文献 1 の化粧料塗布装置では、特別な形状の塗布部を用いる場合に

50

しか適用できず、しかも、下段の肩部の化粧料を十分に取るのは難しく時間を要する。また、上段の肩部及びその近傍、具体的には、扱き突起部の突出部の外周面、上段の肩部の内面、容器において突出部に対向する肩部近傍の内周面に化粧料が付着したままとなり、これらの面により画成される（これらの面で囲まれる）空間に、化粧料が溜まってしまい、化粧料の使い残しが生じてしまう。このような使い残しは、容器内に付着しやすい粘度の高い化粧料の場合に特に顕著となる。

【 0 0 0 5 】

そこで、本発明は、化粧料の使い残しを大幅に低減できる化粧料容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

10

【 0 0 0 6 】

本発明による化粧料容器は、化粧料を収容する有底筒状の収容部の端部に対し縮径する肩部を介して開口頸部が繋がる容器本体と、扱き孔を形成する扱き部を内側に備え開口頸部の内周側に装着された筒状の扱き部材と、開口頸部に着脱可能に装着された蓋体と、蓋体から延在し蓋体が開口頸部に装着された状態で扱き孔を通りその先端の塗布部が収容部内の化粧料に進入する塗布具と、を備えた化粧料容器であって、扱き部材は、肩部より下方へ向かって突出する突出部を備え、突出部は、下方へ行くに従って拡径する拡径部を有し、拡径部の下端部は、容器本体の肩部より下方の内面に接触又は近接することを特徴としている。

【 0 0 0 7 】

20

このような化粧料容器によれば、扱き部材において容器本体の肩部より下方へ向かって突出する突出部が、下方へ行くに従って拡径する拡径部を有し、この拡径部の下端部が、容器本体の肩部より下方の内面に接触又は近接するため、突出部の外面と、容器本体の肩部の内面と、容器本体において突出部に対向する肩部近傍の内面（拡径部の下端部に対向する位置より上方の内面）とにより画成される空間への化粧料の進入が抑制され、これにより当該空間に化粧料が溜まることを抑制でき、化粧料の使い残しを大幅に低減できる。

【 0 0 0 8 】

ここで、拡径部は、変形可能な弾性材より形成されていると、開口頸部の筒孔より大きい拡径部を窄めた状態で開口頸部の筒孔に通すことができ、扱き部材の開口頸部への装着が容易となる。

30

【 0 0 0 9 】

また、蓋体を容器本体から取り外し塗布部が拡径部内に位置した状態で、蓋体を傾けたときの塗布部の可動域に、拡径部の内面が位置していると、蓋体を傾けた状態で、塗布部と拡径部の内面とを接触させることができ、拡径部の内面に付着した化粧料を容易に掻き取ることができる。また、拡径部が変形可能な弾性材より形成されている場合には、接触する塗布部に依って拡径部が容易に変形するため、拡径部の内面に付着した化粧料を一層容易に掻き取ることができる。

【 0 0 1 0 】

また、扱き部は、拡径部の基端に設けられていると、拡径部の基端から下端部に亘って内面に付着した化粧料を容易に掻き取ることができる。

40

【 0 0 1 1 】

ここで、上記作用を好適に奏する拡径部の構成としては、具体的には、テーパ状に拡径する構成が挙げられる。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

このように本発明によれば、化粧料の使い残しを大幅に低減できる化粧料容器を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 3 】

【図 1】本発明の実施形態に係る化粧料容器を示す縦断面図である。

50

【図 2】図 1 に示す化粧料容器から蓋体を取り外した状態を示す縦断面図である。

【図 3】扱き部材内面に付着した化粧料を塗布部により掻き取っている様子を示す説明図である。

【図 4】図 1 ～ 図 3 中の扱き部材を示す斜視図である。

【図 5】図 4 に示す扱き部材の縦断斜視図である。

【図 6】図 4 及び図 5 に示す扱き部材の縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

以下、本発明による化粧料容器の好適な実施形態について図 1 ～ 図 6 を参照しながら説明する。図 1 は、本発明の実施形態に係る化粧料容器を示す縦断面図、図 2 は、図 1 から蓋体を取り外した縦断面図、図 3 は、扱き部材内面に付着した化粧料を塗布部により掻き取っている様子を示す説明図、図 4 ～ 図 6 は、扱き部材を示す各図であり、本実施形態の化粧料容器は、内部に収容した化粧料を使用者により適宜被塗布部に塗布することができるものである。化粧料は、ここでは、液状化粧料とされ、特に粘度が高く従来技術で説明したように容器の肩部等の内面に付着したまま残りやすい液状化粧料である。このような液状化粧料としては、リップグロスを始めとして、例えば、マスカラ、アイライナー、アイブロウ等、種々挙げられる。

10

【0015】

図 1 に示すように、液状化粧料容器 100 は、液状化粧料 L を収容する容器本体 1 と、容器本体 1 に着脱可能に装着された蓋体 2 と、を概略具備している。

20

【0016】

容器本体 1 は、ここでは、硬い樹脂製又は金属製とされ、液状化粧料 L を収容するための収容部 3 と、この収容部 3 の上部に一体に連設され当該収容部 3 に繋がる開口頸部 4 と、を備える。収容部 3 は、有底円筒状に構成されその内部に液状化粧料 L を収容し、開口頸部 4 は、収容部 3 より小径の円筒状に構成されて同軸に配置されると共に、収容部 3 の上端部の縮径する肩部 5 を介して繋がり、その筒内が収容部 3 内に連通する構成とされている。肩部 5 は、ここでは、上り勾配で傾斜し縮径する傾斜部とされているが、水平な段差部等であっても良い。

【0017】

開口頸部 4 には、その外周面に、蓋体 2 を着脱可能に螺合するための雄螺子 6 が形成される。その内周面に、蓋体 2 の後述する塗布部 11 に付着している余分な液状化粧料 L を扱き落とすための扱き部材 7（詳しくは後述）が装着される。

30

【0018】

蓋体 2 は、有頂円筒状に構成され、その開口端側の内周面に、開口頸部 4 の外周面の雄螺子 6 に螺合する雌螺子 8 を備える。そして、蓋体 2 は、その雌螺子 8 を雄螺子 6 に螺合することで、容器本体 1 に対して着脱可能に装着される。

【0019】

蓋体 2 には、当該蓋体 2 から延在する塗布具 9 が設けられる。塗布具 9 は、蓋体 2 内から容器本体 1 の収容部 3 側（図示下方）に突出する軸部 10 と、軸部 10 の先端に設けられた塗布部 11 と、を備える。

40

【0020】

軸部 10 は、蓋体 2 より小径の円柱体を成している。塗布部 11 は、ここでは、スパチュラとされているが、例えば、コーム、巻線ブラシ、筆等であっても良い。

【0021】

扱き部材 7 は、図 1、図 4 ～ 図 6 に示すように、略円筒状に構成され、ここでは、TPU、TPE、ゴム材、軟質 PP、軟質 PE、シリコンゴム等の変形可能な弾性材より形成される。この扱き部材 7 は、開口頸部 4 の内周面に当接する円筒部 12 と、円筒部 12 に連設され開口頸部 4 の上面に当接する鏝部 13 と、円筒部 12 の下部外周面から外方に環状に張り出し肩部 5 の内周面に当接する係合突起 14 と、を備える。また、扱き部材 7 は、係合突起 14 を含み肩部 5 より下方へ向かって突出する突出部 15 を備える。

50

【 0 0 2 2 】

突出部 1 5 は、係合突起 1 4 を含むと共に円筒部 1 2 に続いて下方に延び外周面が縮径していく延出部 1 6 と、延出部 1 6 の下端に連設され、下方へ行くに従って拡径する拡径部 1 7 と、を有する。

【 0 0 2 3 】

拡径部 1 7 は、下方へ行くに従ってテーパ状に拡径する拡径円筒状を成し、ここでは、ラッパ状を呈している。なお、拡径部 1 7 は、テーパ状に拡径するのではなく、例えば湾曲しながら拡径する形状等であっても良い。この拡径部 1 7 の下端部 1 8 は、外方に鰐状に張り出している。

【 0 0 2 4 】

また、突出部 1 5 の内周面で、延出部 1 6 と拡径部 1 7 との境界部、すなわち、拡径部 1 7 の基端には、円板状の扱き部 1 9 が内側に張り出すように設けられ、扱き部 1 9 の略中央には、塗布具 9 が通過する扱き孔 2 0 が設けられる。この扱き孔 2 0 を形成する扱き部 1 9 の内周面が、塗布部 1 1 及び軸部 1 0 に付着した余分な液状化粧料 L を扱き落とす。扱き孔 2 0 は、ここでは、円形孔とされているが、塗布部 1 1 の形状によっては例えば楕円孔等であっても良く、また、上下を連通する例えば十字状のスリット等の孔であっても良い。

【 0 0 2 5 】

そして、このような構成を有する扱き部材 7 は、開口頸部 4 の筒孔より大きく弾性材より形成された拡径部 1 7 を窄めた状態で、上方から開口頸部 4 の筒孔に通され、円筒部 1 2 が開口頸部 4 に圧入されると共に、鰐部 1 3 と係合突起 1 4 との間に開口頸部 4 を挟み込むことで、開口頸部 4 に装着される。

【 0 0 2 6 】

この状態で、図 1 に示すように、拡径部 1 7 の鰐状の下端部 1 8 は、容器本体 1 の肩部 5 より下方の内面で、収容部 3 に収容された液状化粧料 L の液面より多少上方位置の内面に接触した状態となっている。

【 0 0 2 7 】

そして、蓋体 2 が容器本体 1 の開口頸部 4 に螺子 6 , 8 の螺合により装着されることによって、塗布具 9 は、扱き部材 7 の扱き孔 2 0 を通過して容器本体 1 の収容部 3 内に進入し、塗布部 1 1 は、収容部 3 に貯留されている液状化粧料 L に浸漬（進入）する構成となっている。

【 0 0 2 8 】

このように構成された液状化粧料容器 1 0 0 を使用する場合には、図 1 に示す状態から、使用者は、蓋体 2 を回し螺子 6 , 8 の螺合を解除しながら引き上げて、図 2 に示すように、蓋体 2 を容器本体 1 から取り外す。このとき、扱き部材 7 の扱き部 1 9 の扱き孔 2 0 を蓋体 2 の塗布具 9 が通過し、塗布具 9 の特に塗布部 1 1 に付着した液状化粧料 L が扱き落とされる。そして、塗布部 1 1 に付着した液状化粧料 L を被塗布部に塗布し、塗布が終わったら、蓋体 2 を取り出し時とは逆方向に回し螺子 6 , 8 を螺合させながら当該蓋体 2 を容器本体 1 に装着する。

【 0 0 2 9 】

ここで、特に本実施形態においては、図 1 に示すように、扱き部材 7 において容器本体 1 の肩部 5 より下方へ向かって突出する突出部 1 5 が、下方へ行くに従って拡径する拡径部 1 7 を有し、この拡径部 1 7 の下端部 1 8 が、容器本体 1 の肩部 5 より下方の内周面に接触する構成のため、突出部 1 5 の外周面 A と、容器本体 1 の肩部 5 の内面 B と、容器本体 1 において突出部 1 5 に対向する肩部 5 近傍の内周面（拡径部 1 7 の下端部 1 8 に対向する位置より上方の内周面）C とにより画成される空間 S への液状化粧料 L の進入を抑制できる。その結果、当該空間 S に液状化粧料 L が溜まることを抑制でき、液状化粧料 L の使い残しを大幅に低減できる。

【 0 0 3 0 】

また、拡径部 1 7 は、変形可能な弾性材より形成されているため、開口頸部 4 の筒孔よ

10

20

30

40

50

り大きい拡径部 17 を窄めた状態で開口頸部 4 の筒孔に通すことができ、扱き部材 7 の開口頸部 4 への装着が容易である。

【0031】

また、本実施形態によれば、図 3 に示すように、蓋体 2 を容器本体 1 から取り外し塗布部 11 が拡径部 17 内に位置した状態で、蓋体 2 を傾けたときの塗布部 11 の可動域に、拡径部 17 の内周面が位置するようになっている。このため、蓋体 2 を傾けた状態で、塗布部 11 と拡径部 17 の内周面とを接触させることができ、拡径部 17 の内周面に付着した液状化粧料 L を容易に掻き取ることができる。また、拡径部 17 が変形可能な弾性材より形成されているため、接触する塗布部 11 に倣って拡径部 17 が容易に変形し、拡径部 17 の内周面に付着した液状化粧料 L を一層容易に掻き取ることができる。

10

【0032】

また、扱き部 19 は、拡径部 17 の基端に設けられているため、拡径部 17 の基端から下端部 18 に亘って内周面に付着した液状化粧料 L を容易に掻き取ることができる。

【0033】

なお、本実施形態では、拡径部 17 の下端部 18 が、容器本体 1 の肩部 5 より下方の内周面に接触しているが、容器本体 1 の肩部 5 より下方の内周面に近接し、拡径部 17 の下端部 18 と容器本体 1 の内周面との間に隙間が形成される構成であっても良く、このような場合でも、特に粘度の高い液状化粧料 L であれば、空間 S への進入の虞はない。

【0034】

因みに、拡径部 17 の下端部 18 が、容器本体 1 の肩部 5 より下方の内周面に近接し上記隙間が形成される構成では、蓋体 2 を開口頸部 4 に装着するときに、隙間を通して空間 S に対して空気が流通するため、所望の内圧で蓋体 2 を装着することができる。また、拡径部 17 の下端部 18 が、容器本体 1 の肩部 5 より下方の内周面に接触する構成では、突出部 15 に、当該突出部 15 の内側と外側を連通する連通孔を設けるのがより好ましく、この連通孔により、近接する場合と同様に、空間 S に対する空気の流通が可能となり、所望の内圧で蓋体 2 を装着することができる。なお、連通孔の有無は限定されない。

20

【0035】

以上、本発明をその実施形態に基づき具体的に説明したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、例えば、上記実施形態においては、特に好ましいとして、扱き部材 7 全体を弾性材より形成するようにしているが、拡径部 17 のみを弾性材とし、これ以外の部分を硬質材として例えば 2 色成形等により構成するようにしても良い。なお、収容部 3 と開口頸部 4 を分割し、開口頸部 4 の筒孔に扱き部材 7 を下方から進入させて装着し、この扱き部材 7 を有する開口頸部 4 を収容部 3 に装着する構成とすることもできる。この場合は、拡径部 17 や扱き部材 7 は変形可能な弾性材ではなくても良く、硬質材であっても良い。

30

【0036】

また、上記実施形態においては、扱き部材 7 及び開口頸部 4 を、円筒状としているが、例えば、楕円筒状や角筒状等としても良い。また、収容部 3 も、例えば、有底楕円筒状や有底角筒状等としても良い。

【0037】

また、上記実施形態においては、蓋体 2 を螺子により開口頸部 4 に対して着脱可能としているが、蓋体 2 を押し込み / 引き抜きにより開口頸部 4 に対して着脱可能としても良い。

40

【0038】

また、上記実施形態においては、特に好ましいとして、扱き孔 20 を形成する扱き部 19 を、拡径部 17 の基端に設けているが、扱き部 19 の位置は特に限定されるものではない。

【0039】

また、上記実施形態においては、突出部 15 が、延出部 16 と拡径部 17 とを備える構成となっているが、拡径部 17 のみを備える構成としても良い。

50

【 0 0 4 0 】

また、上記実施形態においては、液状化粧品Lに対する適用を述べているが、容器の内面に付着したまま残りやすい例えば半固形状やジェル状等の化粧品に対しても適用可能である。このような半固形状やジェル状等の化粧品では、拡径部17の下端部18が、容器本体1の肩部5より下方の内周面に近接する構成であっても、空間Sへの進入の虞がない。勿論、これらの化粧料の場合でも、拡径部17の下端部18が、容器本体1の肩部5より下方の内周面に接触する構成を採用しても良い。

【 0 0 4 1 】

因みに、本発明は、特開2014-4315号公報に記載のような段差部を2段有する化粧品容器に対しても適用可能であり、この場合には、拡径部の下端部は、容器の下段の段差部より下方の内周面に接触又は近接する構成としても、上段と下段の段差部の間の内周面に接触又は近接する構成としても良い。拡径部の下端部を、容器の下段の段差部より下方の内周面に接触又は近接する構成とした場合には、突出部の外周面と、容器の上段の肩部及び下段の肩部の内面と、容器において突出部に対向する上段及び下段の肩部近傍の内周面（拡径部の下端部に対向する位置より上方の内周面）とにより画成される空間への化粧料の進入を抑制でき、当該空間に化粧料が溜まることを抑制できる。また、拡径部の下端部を、上段と下段の段差部の間の内周面に接触又は近接する構成とした場合には、突出部の外周面と、上段の肩部の内面と、容器において突出部に対向する上段の肩部近傍の内周面（拡径部の下端部に対向する位置より上方の内周面）とにより画成される空間への化粧料の進入を抑制でき、当該空間に化粧料が溜まることを抑制できる。

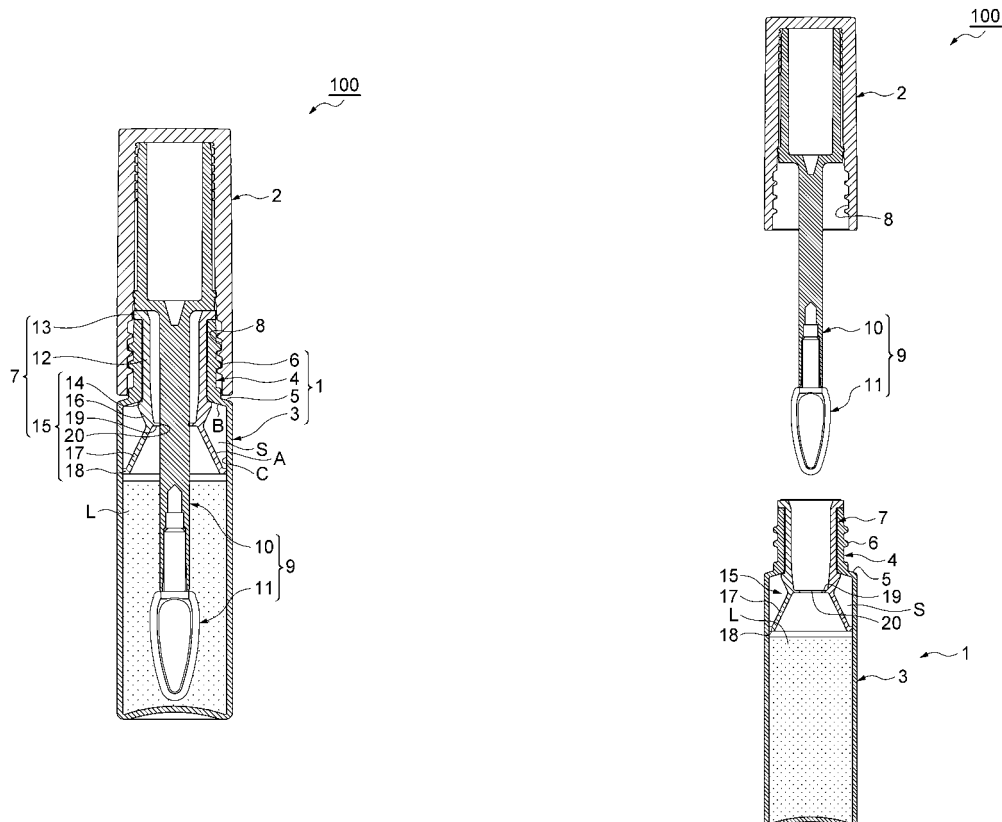
【 符号の説明 】

【 0 0 4 2 】

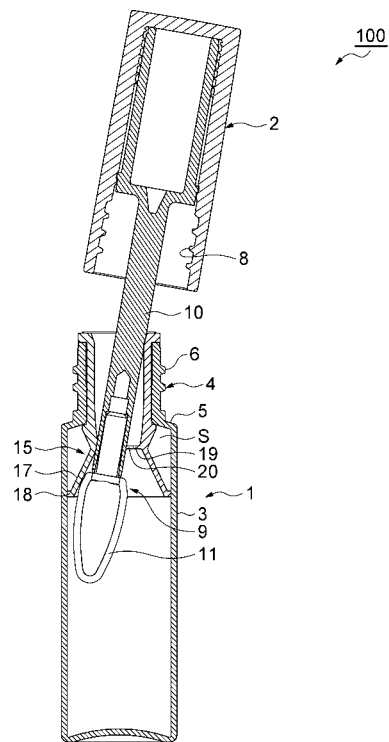
1 ... 容器本体、2 ... 蓋体、3 ... 収容部、4 ... 開口頸部、5 ... 肩部、7 ... 抜き部材、9 ... 塗布具、11 ... 塗布部、15 ... 突出部、17 ... 拡径部、18 ... 下端部、19 ... 抜き部、20 ... 抜き孔、100 ... 液状化粧品容器（化粧品容器）、L ... 液状化粧品（化粧品）。

【 図 1 】

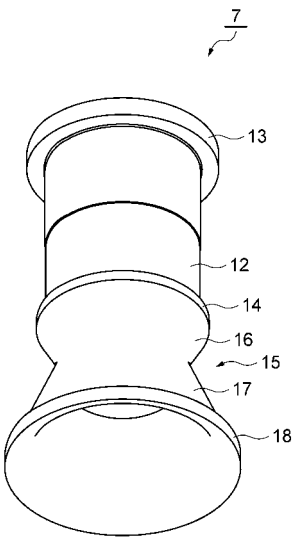
【 図 2 】



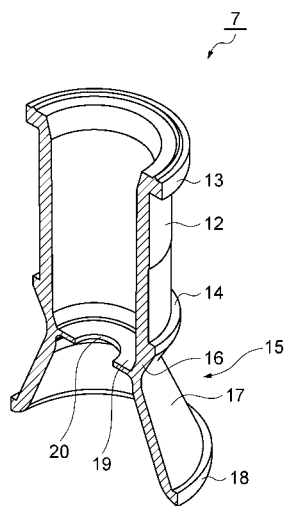
【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】

